

中山間地域に立地する

農産物直売所が担う役割に関する研究

～四万十町「株式会社十和おかみさん市」を対象として～

1190497 田上 みのり

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. はじめに

1-1 概要

農林水産省による平成 27 年中山間地域の主要指標(表 1)によると、日本の耕地面積、総農家数ともに約 4 割を占めており、日本の農業で重要な位置づけにある。高知県内の面積においても、中山間地域が占める割合は 92.1%を占める。さらに、高知県農業振興部地域農業推進課による、平成 28 年 7 月時点での高知県に存在する直売所の数は、142 店舗であり、そのうち約 125 店舗は中山間地域に立地している。

中山間地域は、交通の便が悪い地域が多く、買い物などの日常生活においても不便な場合が多い。そこで、中山間地域に立地する農産物直売所は、地域内にとってどのような役割を担っているのかを疑問に感じた。中山間地域である、高知県四万十町十和地域に立地する「十和の台所」を調査の対象として、運営者「株式会社十和おかみさん市」の会員や地域住民にヒアリング調査を行い、「十和の台所」が地域にとってどのような役割を果たしているのかを明らかにした。そして、今後の中山間地域の維持、発展のための必要な課題について考察した。

表 1 中山間地域の主要指標

(農林水産省ホームページより引用)

| 区分 | 単位 | 全国 (A) | 中山間地域 (B) | 割合 (B/A) |
|----------|------|-----------|--------------|-------------|
| (ア)人口 | 万人 | 12,709 | 1,420 | 11.2% |
| (イ)総土地面積 | 千 ha | 37,797 | 27,409 | 73.7% |
| (ウ)耕地面積 | 千 ha | 4,496 | 1,841 | 40.9% |
| (エ)総農家数 | 千戸 | 2,155 | 953 | 44.2% |
| (オ)販売農家数 | 千戸 | 1,330 | 566 | 42.6% |
| (カ)農業産出額 | 億円 | 88,631 | 36,138 | 40.8% |

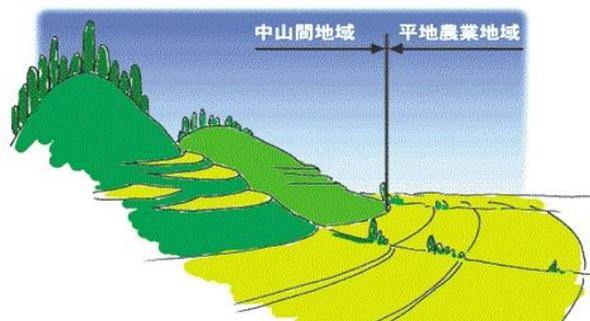


図 1 中山間地域と平地農業地域
(農林水産省ホームページより引用)

1-2 背景

近年、日本の農業分野は、農業人口の減少や耕作放棄地の増加、後継者不足など様々な問題を抱えている。特に、中山間地域では、このような問題が顕著に進行し、人と人とを結ぶコミュニケーションの機会の減少から高齢者の孤立化や、地域コミュニティの脆弱化といった問題も挙げられるようになった。このような問題は、個人で解決できるものではなく、地域住民同士の協働が必要になる。現在では、そのような地域活性化活動を行っている自治体は多いものの、地元に住む高齢者自らが自分たちの生まれ育った地域を守っていくために、後世に伝えようとする団体は現在ではまだ数少ない。

高知県四万十町十和地域では、「株式会社おかみさん市」という、自ら育てる野菜などの地域資源を生かし、地域の活性化に貢献する女性グループがある。「株式会社十和おかみさん市」の活動内容と果たす役割を明らかにすることで、今後の中山間地域の地域創生における 1 つの事例になるのではないだろうか考えた。

1-3 目的

本研究は、「株式会社十和おかみさん市」を対象として、会社の立ち上げに至るまでの経緯や活動内容をはじめ、地域内にとって「株式会社十和おかみさん市」がどのような役割を果たしているのかをヒアリング調査によって明らかにすることである。

1-4 研究方法

本研究は、はじめに中山間地域の現状や課題、地域活性化活動の事例を既往文献の調査により整理した。そして、「株式会社十和おかみさん市」の立ち上げに至るまでの経緯や現在の活動内容を事前調査(ヒアリング)によって明らかにした。地域住民に対して、地域や仕事への思いや考えについて、ヒアリング調査を行った。最後に、ヒアリング調査での回答を参考に、地域内にとって「株式会社十和おかみさん市」がどのような役割を果たしているのかを考察する。

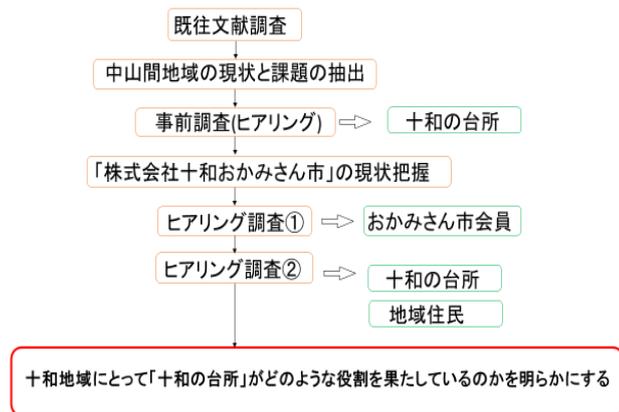


図2 研究手順(筆者作成)

2. 農産物直売所について

2-1 農産物直売所とは

農林水産省による、平成28年05月31日時点での直売所の数は、全国で2万3,700カ所、総販売額が約9,000億円(平成25年度)と増加傾向にある。一方で、出荷農家の高齢化等により、運営が厳しくなっている直売所も各地でみられる状況である。農産物直売所は、直売所活動を生産者(農家)も消費者(地域住民)も強く支持して、急速に発展した活動である。消費者にとって、多くの小売店の農産物は、生産地はあるものの生産者は記載されていないが、直売所では、生産地と生産者が、いわゆる「顔の見える」状態で販売していることにより、安心感が得られる。大規模な直売所では、売上精算の

都合もあって、個々の農産品に出荷農家の個人名ラベルが添付されていることが多い。また、生産者自身の販売する直売所では生産者、消費者の間に人間的な交流やつながりが生じるため、相互の良心に基づく関係が構築されやすくなる。また、安全・安心の農産物を安価に手に入れたいという消費者のニーズの高まりから、近年では多くのメディアにも取り上げられるようになっている。

2-2 高知県の農産物直売所

高知県農業振興部地域農業推進課による、平成28年7月時点での高知県に存在する直売所の数は、142店舗である。うち17店舗は高知市内だということが分かった。四万十町は、高知市内の17店舗、四万十市の16店舗に次いで3番目に多く、10店舗であった。その他高知県内の市町村別に直売所の店舗数を以下の表にまとめた。

表2 高知県 市町村別農産物直売所数

(高知県農業振興部地域農業推進課より筆者作成)

| | | | |
|-------------|-----------|------|---|
| 高知市 | 17 | 奈半利町 | 2 |
| 四万十市 | 16 | 安田町 | 2 |
| 四万十町 | 10 | 土佐町 | 2 |
| いの町 | 9 | 中土佐町 | 2 |
| 宿毛市 | 9 | 日高村 | 2 |
| 佐川町 | 7 | 室戸市 | 1 |
| 土佐市 | 7 | 東洋町 | 1 |
| 須崎市 | 7 | 田野町 | 1 |
| 津野町 | 6 | 馬路村 | 1 |
| 土佐清水市 | 6 | 芸西村 | 1 |
| 南国市 | 6 | 本山町 | 1 |
| 安芸市 | 5 | 仁淀川町 | 1 |
| 香南市 | 5 | 越知町 | 1 |
| 梲原町 | 5 | 大月町 | 1 |
| 黒潮町 | 5 | 三原村 | 1 |
| 香美市 | 3 | | |

3. 調査対象地域について

3-1 高知県四万十町について

四万十町は、平成 18 年 3 月 20 日に高知県の窪川町、大正町、十和村の 2 町 1 村が合併して誕生した町である。四万十町の面積は 642.1 km²、人口は(2010 年時点)、18,700 人である。四万十町の総人口は、1955 年から減少し続ける現状にある。さらに、四万十町の発表した「四万十町人口ビジョン」による将来予想(2020 年以降)では、今後も人口減少が続き、2040 年では、10,000 人を下回ることが予想されている。また、年齢 3 区別人口比率(図 4)は、国勢調査をもとに一部を抜粋したものである。このグラフでは、総人口に対する 15 歳未満の年少人口と 15~64 歳までの生産年齢人口の割合が減少する中、65 歳以上の老年人口の割合が年々増加していることが分かる。四万十町の発表した「四万十町人口ビジョン」による将来予想(2020 年以降)では、さらに高齢化が進むと予想され、2030 年では人口の半数以上が 65 歳以上になると予想されている。

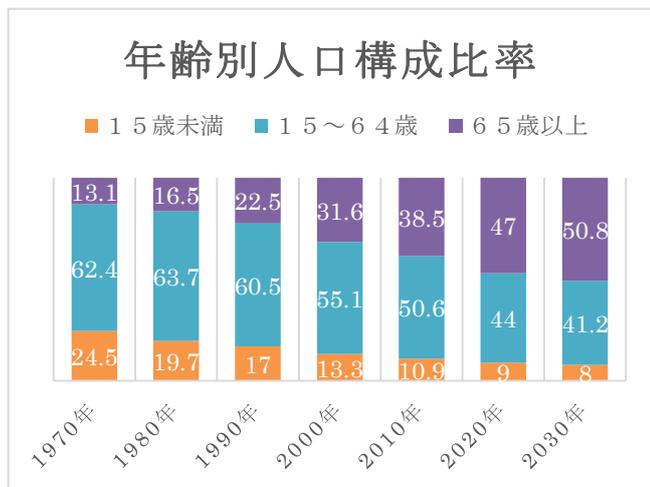


図 3 年齢別人口構成比率
(四万十町人口ビジョンより筆者作成)

3-2 四万十町十和地域について

活動の拠点である四万十町十和地域の総面積は 164.66 km²、林野率 90% の純山村である。人口は 4,146 人である。(平成 29 年 10 月 31 日時点)



図 4 研究拠点(四万十町ホームページより筆者作成/撮影)

3-3 「株式会社 十和おかみさん市」の概要

「株式会社十和おかみさん市」は、野菜の生産者や、加工グループが集まり、女性が自立して仕事を作り、自分達自身で組織を運営していくことを目指し、2001 年に会社化した。現在の会員数は 137 名、内訳は、役員 5 名、事務局員 1 名、加工部会 50 名、給食部会 34 名、エコ部会 130 名、イベント部会 40 名である。(掛け持ちをする会員を含む)

会員の年会費は 1000 円/1 人。

十和地域内で、生産グループは 26、加工グループは 9 ある。

3-4 「おかみさん市」の立ち上げに至るまで

1970 年頃、都市との経済格差や高齢化などの社会問題が少しずつ目立ち始めた頃に、集落単位で設立された女性加工グループが活動の始まりであった。1970 年、1978 年と 2 度にわたり、椎茸の生産量が全国 1 位となった。1990 年頃には JA の女性部が中心に地域内にて金曜市が開始、1995 年頃には良心市が開始された。それらは、地域内でも 2 つのグループに分かれ、軽トラを使用した移動販売だったという。販売されていた商品は野菜をはじめ、蒸しパンやこんにゃく、赤飯といった加工品も販売されていたという。1997 年には、「ふるさと産品協議会」が発足、2000 年には、高知市内の日曜市にも出店を開始した。翌年には、「十和村地産地消運営協議会」が発足された。2003 年からは、環境にも優しい農業の取り組み (ISO14001) を認証取得。そして、多くの人が親しみを持ちやすいよう、「ふるさと産品協議会」から「おかみさん市」に名前を変更した。2005 年には、新たなイベント「おもてなしツアー」が開始された。2006 年に、十和村、大正町、窪川町が合併し四万十町となると同時に、行政からの補助が減少し、自分たちで会社化して活動することを決意し、2011 年に会社化した。

3-5 「十和の台所」の開設について

平成 18 年 3 月に高岡郡窪川町と幡多郡大正町、十和村の合併により、高知県幡多郡十和村から高岡郡四万十町十和になった。合併以降、行政からおかみさん市への補助も減少し、経理やその他事務作業もグループ内で賅っている。また、他への出荷のみでは手数料もかかるため、自分たちのお店がどうしても必要だと考えた。そこで、平成 27 年 5 月 1 日、念願の直売所「十和の台所」が開設された。

3-6 昔野菜の概要

四万十町十和地域では、採種を繰り返していく中で、その土地の気候・風土に合った野菜へと確立させてきた、昔野菜が存在する。十和地域の中でも、数十年前から変わらない形の野菜を作ることができているのが、大道地区である。昔野菜の種類は、昔ウリや昔ダイコン、昔タカナなど数多く存在する。以下に、それぞれの昔野菜の特徴をまとめた。

- ① 昔うり
 - ・形は三角形
 - ・中が空洞になっている
 - ・色も形もさまざまである(緑・白・茶)
 - ・一般のキュウリと比べ、大きく、甘い
- ② 昔ダイコン
 - ・首の部分がきれいな紫色をしている
 - ・歯ごたえのあるしっかりした肉質
 - ・一般のものとは比べて、とう立ちは遅い
- ③ 昔カブ
 - ・首の部分がきれいな紫色をしている
 - ・独特なおいがある
 - ・肉質は柔らかく、香りがよい
 - ・甘みも強く、酢物や煮物に適する
- ④ 昔タカナ
 - ・あくが強い
 - ・一般のタカナと比べて、葉の数が多い
 - ・適度な辛みがある

昔ダイコン
昔ウリ
昔タカナ
昔カブ



図5 昔野菜の写真(筆者撮影)

4. 調査の概要

4-1 事前調査

まず、「株式会社十和おかみさん市」の代表居長原信子様のお話を参考に、会社化する以前から現在までの、「株式会社十和おかみさん市」の主な取り組み内容を以下の表にまとめた。

表3 「おかみさん市」の現在に至るまでの活動内容

| | |
|----------------|---|
| 1970年頃 | 集落単位で設立された女性加工グループの活動が盛ん |
| 1970年 1978年 | 2度にわたり椎茸生産量が全国1位となる |
| 1990年頃 | 地域内にて金曜市の開始 |
| 1995年頃 | 地域内にて良心市の開始 |
| | 地吉地区椎茸加工グループ「五縁の会」 農林大臣賞受賞 |
| 1997年 | 十和村ふるさと産品協議会が発足 |
| 2000年 | 高知市内の日曜市に出店を開始 |
| 2001年 | 十和村地産地消運営協議会が発足 |
| 2003年 | ISO14001 認証取得 「ふるさと産品協議会」⇒「おかみさん市」 に名前を変更 |
| 2005年 | おもてなしツアー開始 |
| 2006年 | 日本農業賞「食の架け橋部門」 大賞受賞 |
| 2007年 | おもてなしバイキングの開始(道の駅とおわにて) |
| 2009年 | 農林水産祭「むらづくり部門」 内閣総理大臣賞受賞 |

| | |
|-------|---------------------------|
| 2011年 | おかみさん市会社化 |
| 2012年 | 「道の駅とおわ」にてイベント販売開始 |
| 2013年 | スーパーはまやにてイベント販売開始 |
| 2016年 | 農産物直売所「十和の台所」開設 |
| 2018年 | おもてなしバイキング再開(十和の台所に て) |

4-2 ヒアリング調査

「株式会社十和おかみさん市」の代表1名、会員4名、地吉地区住民を対象にヒアリング調査を実施した。詳細は以下の通りである。

(1)目的

- ・おかみさん市の活動内容を明らかにすること。
- ・地域内において農産物直売所「十和の台所」が果たす役割を明らかにすること。

(2)日時

- ① 2017年7月26日(水)
- ② 2018年12月5日(水)
- ③ 2018年12月22日(土)
- ④ 2019年1月20日(日)
- ⑤ 2019年1月23日(水)

(3)場所

「十和の台所」・地元の廃校小学校・会員各自宅

(4)対象

- ① 「おかみさん市」奥大道加工部会 2名
- ② 「おかみさん市」代表 居長原信子様
- ③ 「おかみさん市」会員 2名
- ④ 「おかみさん市」代表 居長原信子様
- ⑤ 四万十町十和地域地吉地区住民 1名

(5)主なヒアリング項目

- ① ・昔野菜の種類や特徴について
 - ・加工品の開発と内容について
 - ・後継者問題について
- ② ④ ・会社立ち上げまでのそれぞれの活動について
 - ・おかみさん市の仕事内容
 - ・仕事をする上でのやりがい、苦勞する点
 - ・現在抱える問題、課題

・今後の展望について

③ ・作っている野菜の種類

・年をとってもこの仕事を続けていける理由

・あなたにとって「十和の台所」はどのような存在であるか

⑤ ・地域内での活動について

・地域にとってのおかみさん市の存在について

・これからさらに地域を発信していくには

5. ヒアリング結果

5-1 おかみさんたちが活動を続ける理由

十和地域で農業を営んでおり、おかみさん市の会員である女性2名(会員Aさん…90歳、会員Bさん…87歳)に対し、2018年12月22日、ヒアリング調査を行った。

会員Aさんは、毎週月曜日と金曜日の2回、人参や大根、ナスやキュウリといった様々な野菜を「十和の台所」に出荷している。会員Bさんは、毎週月曜日に椎茸や甘トウガラシ、大根などを出荷している。出荷するためには、収穫してから野菜の袋詰めまで、すべて自分たちで行うため、前日からの準備が必要となる。

そして、会員Aさん、Bさん共に、この仕事は体力的にも苦勞することが多いが、大変だと考えると、この仕事はできない。また、仕事は忙しいが、そのおかげで、元気に過ごすことができていると述べていた。他にも、野菜をつくるのが楽しい、畑があったら何か植えたいくなるという前向きな発言が多かった。そして、自分の育てた野菜がお金になり、生涯現役で活動できる農業という仕事に誇りを持っていた。さらに、「十和の台所」に足を運ぶと、必ず知り合いに会い、コミュニケーションを楽しむことができる。今回のヒアリングで、農業という仕事が大きな生きがいにつながっているということが分かった。

5-2 地域住民の考え

十和地域地吉地区の住民1名に対し、1月23日にヒアリング調査を行った。義務教育終了後は海外留学や地域の農業協同組合で農業について勉強された経験の有する。40年ほど前から、家族で原木の椎茸を栽培している。また、おかみさん市立ち上げ以前から活動の様子を近くで見えてきたという。十和地域は、傾斜も激しい畑で立地的にも不利な条件であるのに加え、近年では気象異常の影響で、以前よりさらに厳しい

状況での栽培を強いられている。しかし、周辺の地域と比べ、高齢化も早く進行するこの地域で、高齢者自らが活性化活動を行うことは、地域にとっても必要なことであり、高齢者も農業により、元気であることができているのだとおっしゃっていた。地域にとって、「十和の台所」ができるまでは、買い物をする場所が1か所しかなかったが、ここでは新鮮な野菜やお弁当が販売されており、地域内の住民も以前よりは過ごしやすくなったという。

6. 「おかみさん市」と地域を結ぶ活動内容

「株式会社十和おかみさん市」の現在の主な活動内容は、以下の通りである。

(1) 野菜の直販

平成27年に「十和の台所」での販売活動が開始した。販売している商品は、会員の中の約90名の野菜やおかみさんたちの考えた加工品、地域住民から絶大な支持を得ている低価格のお弁当である。来客者のほとんどが地域内の住民だという。また、「十和の台所」ができるまで、十和地域では地域内に新鮮な野菜を購入できる場所は1カ所のみであったため、地域住民に頼られる存在になった。

(2) イベント販売

生産者が高知市内やいの町、南国市などのスーパーや四万十町内を中心に、月に数回イベント販売を行っている。これは、生産者グループが自分たちの畑で収穫した野菜や米などを持ち寄り、その場で実演調理して販売まで行っている。

(3) 加工品の開発

地元の食材を使った加工品の開発や販売を加工部会が行っている。現在までの加工商品は、豆腐の味噌漬や椎茸のタタキたれ、しいたけの鰹煮、からい醬などがある。



図6 加工品の一部(筆者撮影)

(左…味噌漬豆腐, 右上…椎茸のタタキたれ, 右下…からい醬)

(4) おかみさん市バイキング

2007年の「道の駅とおわ」開業から毎週水曜日、毎月最終日曜日に地元で採れた野菜を中心に調理し、バイキング形式でおもてなしを行っている。(2018.4までは「道の駅とおわ」にて 2018.8～は農産物直売所「十和の台所」にて)おかみさん市の生産者が4グループに分かれて、ローテーションで調理担当を行う。バイキング開催の前日に下準備を行い、当日は朝5時30分に集合し、調理などの当日の準備が始まる。また、グループによって少しずつメニューや味付けが異なるのも特徴である。椎茸のタタキ、野菜のかき揚げなどの人気メニューをはじめとする、12～13種類の郷土料理を提供している。それらはすべて地元で採れた野菜で賄い、地域の味の伝統を受け継ぐ1つの活動になっている。



図7 おもてなしバイキングの様子(筆者撮影)

(5) 料理教室

十和地域の郷土料理の継承及び、昔野菜の普及を目的として、年に1度、料理教室を行っている。おかみさんたちは、地域で採れる野菜の調理方法や昔ながらの味付けを教えている。主に地域内の若い女性を中心に参加している。

(6) 学校給食事業

地元の小学校を対象とし、給食で使う野菜を出荷する。この食材提供をきっかけに、おかみさんたちと小学生が共同で調理実習を行うという機会も設けられている。また、子供たちは小学校の畑でも地域の昔野菜(伝統野菜)を栽培し、年1回、「十和の台所」にて販売体験も行っている。子供たちにとって、地域野菜を使った郷土料理をより身近に感じる貴重な機会となっている。

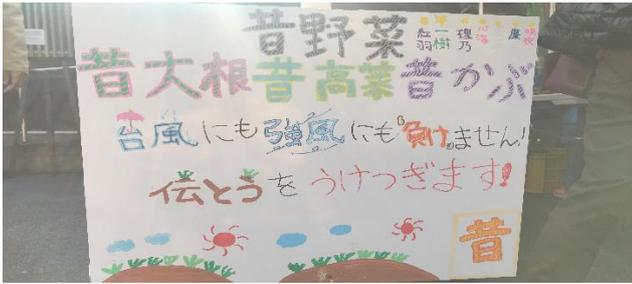


図8 地元小学生が育てた昔野菜(筆者撮影)

(7) ISO14001によるエコ農業の取り組み

おかみさん市では、2002年から販売する全ての野菜に、おかみさん市独自の「正直エコ農産物表示」を付し、品名、生産年月日、生産地、生産者名、化学合成農薬の使用回数、化学合成肥料使用の有無を表示しており、消費者から大きな信頼を得ている。そして、十和のおでかけ台所での対面販売から「消費者の健康を思いやるこころ」、「消費者の安全・安心、そしてお互いの健康を保証し合うこころ」がより一層育まれ、十和のブランド野菜として地域外にも固定客を持つ。

また、産直野菜でのISO14001認証取得は初めてであり、大きな注目を集めた。現在も、環境にやさしい農業を継続していくため、年2回、学習会を行っている。

(8) おもてなしツアー

年3~4回、郷土料理や、四万十川の清流などの自然、農業体験など、その時期にしかできない体験プログラムを提供し、お客様に楽しんでもらう。

7. おかみさん市が地域で果たしている役割

ヒアリング調査から明らかになった「株式会社十和おかみさん市」と地域を巡る関係図を以下(図9)にまとめた。

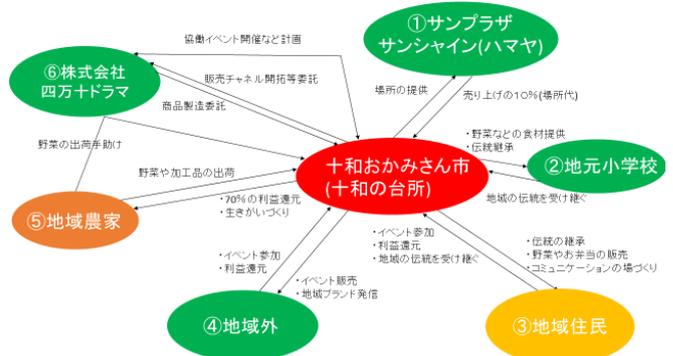


図9 おかみさん市と地域をめぐる関係図(筆者作成)

① サンプラザ・サンシャイン=イベント販売

おかみさん市は、四万十町内のサンシャイン(ハマヤ)と、四万十町内、高知市内のサンプラザにて、イベント販売を行っている。

サンプラザ、サンシャインはおかみさん市に場所の提供を行う。おかみさん市は場所代として売り上げの10%を支払う。

② 地元小学校=学校給食事業

おかみさん市は、給食で使う野菜を地元小学校に出荷する。地域の昔野菜(伝統野菜)での調理実習や販売体験の場も提供により、地域の伝統を保全し、継承している。

地元小学校は、地域の伝統を保全し、受け継いでいる。

③ 地域住民=料理教室、野菜の直販

おかみさん市は、直販活動にて、野菜や加工品の販売を行い、地域住民の買い物の不便さの解消に貢献している。また、地域のコミュニケーションの場にもなっている。

さらに、地域住民に対する、料理教室にて、伝統の保全、継承を行っている。

地域住民による、イベントの参加や野菜の購買活動はおかみさん市に利益を生み出す。さらに、料理教室により、伝統を保全している。

④ 地域外=イベント販売

おかみさん市は高知市内のスーパーにおいてイベント販売を行い、地域ブランドを発信している。

地域外住民によるイベントの参加や商品の購買行動は利益をもたらす。

⑤ 地域農家

地域の農家は、「十和の台所」に野菜や加工品を出荷する。

「十和の台所」は商品単価の70%を地域農家に還元する。

⑥ 株式会社四万十ドラマ

おかみさん市は、四万十ドラマに対し、販売チャネル開拓などを委託している。

四万十ドラマは、おかみさん市に対し、商品製造などを委託している。

また、おかみさん市と四万十ドラマは、協働のイベントなどを開催している。

(補足)

四万十ドラマは、野菜の出荷が困難な地域農家に対し、牛乳の配達を利用した出荷の手助けを行っている。

8. おかみさん市が地域内で果たす役割(結論)

おかみさん市の運営する「十和の台所」の果たす役割は以下の3つである。

① 販路開拓としての役割

おかみさん市は、四万十町内や高知市内のスーパーでも、地域の野菜や加工品を販売している。この活動は、新たな販路の開拓としての役割を果たしていると考えられる。

② 伝統の保全・継承の役割

おかみさん市は、地域内の若い女性を中心として、郷土料理継承のため、料理教室を行っている。また、地元の小学生が昔(伝統)野菜を自ら育て、販売する機会と場所を提供している。この活動は、地域の味という伝統を保全し、継承する役割を果たしていると考えられる。

③ 生きがい形成としての役割

おかみさん市の会員は、活動を通し、自分たちの育てた野菜を「おいしい」と言ってもらえることで、仕事に対するやりがいを感じていた。また、この活動をきっかけとしたお客さんや地域住民と会話を楽しむことが一番の楽しみだと分かった。このことから、この活動はおかみさん市にとって、生きがい形成の役割を果たしていると考えられる。

9. 今後の課題

農産物直売所の果たす役割を明確なものにするためには、以下の調査が必要である。

・行政や、より多くの地域住民がこの活動に対し、どのように考えているのかをヒアリング調査によって明らかにする。

・地域における祭祀などの日常生活における役割を明らかにする。

参考文献、引用文献、協力者

・農林水産省「中山間地域とは」

http://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai_seido/s_about/cyusan/ (平成31年1月25日閲覧)

・いなかパイプ「いなか」と「とかい」のパイプウェブ

<http://inaka-pipe.net/okamisanichi/> (平成31年1月20日閲覧)

・関満博、松永桂子(2010)著

農産物直売所/それは地域との「出会いの場」

・西山未真(著)、小田切徳美(監修)

農村と都市を結ぶソーシャルビジネスによる農山村再生

・四万十地名辞典

<https://www.shimanto-chimei.com/> (平成31年1月25日閲覧)

・農林水産省「全国直売所数」

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/yosan/hosei_gaiyou/h_tyokubai/ (平成31年1月25日閲覧)

・農林水産省 ホームページ

「内閣総理大臣賞おかみさん市」

http://www.maff.go.jp/j/nousin/noukei/binosato/b_maturi/pdf/h17_daijin.pdf (平成31年1月25日閲覧)

・高知県農業振興部地域農業推進課

「平成28年7月高知縣市町村別直売所数」

http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/162201/files/2017032800469/file_20173315124527_7.pdf (平成31年1月20日閲覧)

・株式会社十和おかみさん市代表取締役 居長原信子様

・株式会社十和おかみさん市会員の方々

・十和地域住民の方々

本研究にあたって、株式会社十和おかみさん市代表取締役居長原信子様、株式会社十和おかみさん市会員の方々、十和地域住民の方々、馬淵先生にご協力いただいたことを深くお礼申し上げます。